友愛
発行所 友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10 電話大塚(941)2801
編集兼発行人 渡辺 昇
定価 1部10円

入会申込は支部または本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇 友愛青年同志会

第7回全国大会

写真上・全国大会開会式
下・全国大会に集まった代表

第7回全国大会は既報の通り、5月3日・4日の両日長野県軽井沢の友愛山荘で開催された。今回の大会に出席した代表者は117名、オブザーバー33名の多きに達し、庭にテントをはるなど終始若さあふれる活気にみちた雰囲気をかもし出していた。

実質的には5月2日より5月5日までの全員合宿による大会は、従来になく充実したもので、大会提出議案以外に運動展開に際しての具体的なそして身近かな問題を話し合う機会ができたことは、今後の本会発展のために大いに役立つことになろう。

五月晴の空に響く若き歌声
友愛山荘に集う代表一五〇名

全国大会の開会式は、五十嵐常任幹事の開会の辞につづいて、全国同志代表百余名の斉唱する「君が代」によって開幕された。奥田吉郎大会準備委員長は、鳩山一郎会長に本会の成長を報告、中央および地方における本会の躍進を讃えるとともに、軽井沢友愛山荘で開かれることを得た第七回全国大会の意義を強調、その結びにあたって、本年すでに海外に派遣することを決定した世界ユースラリー日本代表の早川忠光君（常任幹事・文化部長、友愛山荘管理主事）および世界友愛連盟少年大会日本代表の柳沢紘君（本会参与柳沢優氏長男）・屋応高校在学）の両君を紹介、万雷の拍手のうちに両君の挨拶があった。次いで、名与役員を代表して柳沢優参与より"友愛の信念に徹せよ"と激励の挨拶があり、友好諸団体および各界賛助者よりの祝電が披露されるとともに、鶴巻克雄国際部長が今年の伊勢湾台風に際して示された世界的な迅速な援助に対して、桑名支部を代表して謝辞をのべた。ここで去る一月本会が財団法人日本友愛青年協会と共催でおこなった「故鳩山一郎先生顕彰論文」の入選者表彰式がおこなわれ、審査委員長代理深津栄一常任参与の審査経過報告ののち、土井昭道（岡山）・松井敏次（東京）・浜本英樹（学生部）の五君にそれぞれ賞状と記念品が授与されて、開会式の行事を終了、全員起立して「友愛の歌」を斉唱し、その幕を閉じた。

ついで仮議長に北川登君（常任幹事・総務部長）を選出、資格審査委員長清水文夫君（福島県猪苗代支部長）から前日の代表資格審査報告が発表され、万雷拍手の裡に北川仮議長は第七回全国大会の成立を宣言した。つづいて大会運営委員会の審議報告について委員長高橋最富君（広島県尾道支部長）より、議事日程、議題案、分科委員会などの報告があり全員これを了承。議長団には議長鎌田修次君（山口県山口支部）副議長に熊谷典治君（長野県東信支連会長）浜本英樹君（関東学生部委員長）の三君が選出され、鎌田修次君は議長席に着席、注意事項を指示し、大会議記長に鶴巻克雄君を任命、本会議の開会を宣言した。

本会議ではまず、渡辺昇事務局長の一般会務報告及び決算報告があり、これを了承、議長は本大会に提出されている各議案を第一、第二、第三の各分科委員会に付託し、第一日目の本会議を終わり、午後一時より深津栄一常任参与の特別講演「友愛の理論と実践」を全員で聴き、それぞれの分科委員会にかれ議案の審議をおこなった。四日は午前六時より役員選衡委員会が開かれ、その後前日に引き続き分科委員会を再開、終って本会議で出されている各議案を第一、第二、第三の各分科委員会別項のように選出したのを最後に、第七回全国大会のすべての議事を終了、新役員を表して奥田幹事長の挨拶のあった後、正本良忠君（広島県広島支部長）が朗々と「大会宣言文」を朗読、全員起立のうちつづいて代表中の最年少者勝又一幸君（学生部）の発声で友愛青年同志会の万才を三唱、北川常任幹事の提案で大会議長および書記局の労に対し全員嵐の拍手をもって感謝の意を表わし、うるわしい友愛の雰囲気のあふれるなかに、熱と感激をこめた前後三日間にわたる全国大会はその幕をとじた。

綜合的な討議をおこない、各議案を可決した。

昭和三十五年度新役員（別項のように選出した）を最後に、第七回全国大会のすべての議事を終了、新役員を表して奥田幹事長の挨拶のあった後、正本良忠君（広島県広島支部長）が朗々と「大会宣言文」を朗読、全員起立のうちつづいて代表中の最年少者勝又一幸君（学生部）の発声で友愛青年同志会の万才を三唱、北川常任幹事の提案で大会議長および書記局の労に対し全員嵐の拍手をもって感謝の意を表わし、うるわしい友愛の雰囲気のあふれるなかに、熱と感激をこめた前後三日間にわたる全国大会はその幕をとじた。

昭和三十五年度役員
—友愛青年同志会—

名誉会長　クーデンホフ・カルレギー
会長　鳩山 薫
副会長　川崎 秀二
幹事長　奥田 吉郎
常任幹事　稲尾 守正
五十嵐省吾
尾形 智矩
奥田 吉郎
佐野 憲見（神奈川大）
川手正一郎
北川 登
田口 紀彦（中大）
鶴巻 克雄
高彬 信美
清水 孝一（日大）
早川 忠光
吉田 充彦（明大）
早川 広中
山口 剛史（近畿大）
満生雄美子
宮田 靖
新谷 和三（桃山大）
（本部選出）
幹事　櫛沢 宗治（京都）
渡辺 昇
事務局長　櫛沢 宗治
（他方選出）
吉川 昇一（北海道）
高木 正朗（北海道）
神崎 征治（北海道）
川村 勝敏（岩手）
清水 文夫（福島）
蓬田 健一（栃木）
石原 政男（群馬）
八木 宏之（東京）
山田 宏樹（東京）
白倉 初男（長野）
折戸 博司（富山）
加藤 幸男（愛知）
五十嵐昭男（三重）
鎌村 芳雄（京都）
山崎 勝巳（大阪）
磯部 政一（大阪）
監査　山田 元樹　山川 昇
統制委員　北川登、鶴巻克雄、柳沢定勝、飯塚祥太郎、山崎勝巳、大塚忠次郎、八木宏之、松井敏次、勝又一幸、武井桂子
常任参与　深津 栄一
参与　柳沢 優　近藤 春雄
加藤 射一　武内 重郎
嫉尾 要（岡山）
桧山 修（広島）
十川 昭五（香川）
安田 勝（徳島）
奥田 吉郎
矢野 秀敏（福岡）
丸山 進（大分）
（学生部選出）
田口 紀彦
佐野 憲見（神奈川大）
北川 登
鶴巻 克雄
清水 孝一（日大）
吉田 充彦（明大）
山口 剛史（近畿大）
新谷 和三（桃山大）
（本部選出）

名誉会長に力伯
日本招待も決まる

カレルギー伯

友愛恩恵の生みの親であるカレルギー伯日本招待を機に本会の名誉会長推戴が、今年の大会で取り上げられ、正式に決定した。本会ではさっそくスイスに在るカレルギー伯にこの旨を伝達するとともに来日についての連絡をとることにしたのである。

なお今回の全国大会に力伯より次のメッセージが寄せられている。

—力伯よりのメッセージ—

親愛なる友人諸君！

私の心からなる友愛の信念とともに、私は第七回友愛青年同志会全国大会に祝いの言葉をおおくりできることを喜んでおります。

私は、人類永遠の平和は、各国家間の国際理解よって達成されるのではなく、人間の間の友情と友愛によって達成されるものであると確信しております。そのために皆さんの今後の活躍を期待し、明年皆さんにお目にかかれることができましたならば、膝を交えて語らい合いをしたいと今から楽しみにしております。

—敬称略—

各方面より祝辞

日本青年団体国際委員会、日本青年団協議会、日本ユース・ホステル協会、日本健青会、青年アジア協会、日本キリスト教青年会同盟、日本青年学生問題研究会、議会政治擁護青年同盟、日本学生総連合会、日本国民金協会、日ソ協会、菅原通済、今井伯申、福井正吉、大西誠治、矢野秀敏、古館仁義、三林啓子、村口勝哉。

鶴巻克雄君
歯学博士に
—マニラで講演—

来る五月二十五日よりフィリッピンのマニラで開催される「フィリッピン歯学会並びにアジア太平洋歯学会」に参加する日本代表五名の一人として鶴巻克雄君（常任幹事）が選ばれ、五月十九日羽田発空路渡行することになった。

同君は先般新制度の歯学博士の称号を授与された歯学会の若きホープとして嘱望されているもので、マニラにおける学会中五月二十七日には特別講演をおこなう。

支部旗授与

大会第二日目五月四日の本会議再会に先立ち、昭和三十四年度において支部結成を行なった福島県猪苗代支部（支部長清水文夫）大阪府茨木支部（支部長山崎勝己）関西学生部（委員長口剛史）広島県広島支部（支部長正本良忠）広島県世羅西支部（支部長向田郁之）山口県徳山支部（支部長岡正雄）広島県瀬戸田支部（支部長植原秀雄）の各支部代表者に、深津栄一常任参与からそれぞれ支部旗が授与された。

先
投資家最優先
第一證券
本店 東京・日本橋・三越本店前

大会宣言文

大会宣言文を読む正本君

新緑の青葉薫る五月。創立以来七ヵ年の苦難と光栄を経たわが同志代表は、全国津々浦々より参集して第七回全国大会を開催することを得た。全国同志会員の汗と努力の実践は、偉大なる前会長鳩山一郎先生逝去の悲報をのりこえ、その遺志を継承して、今やわが友愛青年同志会は一段と前期的な飛躍をなし、本会の多面にわたる民主社会建設の諸活動は全国民の注目の的となっている。これは、内にあっては、本会の総力を挙げた友愛山荘建設運動の成功をはじめ、各種社会福祉制度研究運動の中核となって献身した成果であり、かつまた、外に向ってはたび重なる海外交流の促進によって友愛による国際連帯活動を推進した成果であって、全国同志会員はにもって誇りとするものである。

しかしながら、内外の敗治情勢は依然として安定と平和の大道から程遠いものがあり、世界における民主主義社会の実現もまた、隣国大韓民国にみる如く、前途多多なる大の努力を要するといわねばならない。更には、核実験の全面的禁止、軍縮の可及的速やかな実施も全世界国民の世論に背を向けている現状であり、われわれはここに声を大にして東西首脳会談の早期実現を望み、かつ、その合意による偉大な成功によって、人類の歴史に輝ける新しい一頁を飾られるよう期待するものである。

他方、安保改定をめぐる国内情勢は誠に遺憾な実情であり、特に全学連を中心とする破壊的暴力行為に対しては強く警告を発するとともに、政府当局に対してもよく世論☆代表は一意に会して来る第七回全国大会を開催し、すべての対立を解消に導くものは友愛であることを確信し、輝ける一九六〇年の発展を期して、次のスローガンを採択した。

一、友愛恩恵の徹底と組織の完成をはかろう。
一、勤労青少年対策を促進しよう。
一、国民年金制度の普及と充実をはかろう。
一、カレルギー伯の日本招待を実現しよう。
一、総力をあげて友愛会館の建設を推進しよう。

右の決議にしたがい、われわれは友愛による新しい人間関係を打ち立て、権力に屈せず利慾に溺れず、一致団結して友愛社会実現の理想に向かって前進することを誓う。右宣言する。

一九六〇年五月四日

第七回友愛青年同志会全国大会

第七回全国大会に提出された議題案は別稿の通り、本部・地方支部・学生部合せて十二議題案で、それぞれ第一・第二・第三分科委員会に付託され、五月三日・四日にわたって審議決定した。各分科委員会とも従来になく白熱した討議がおこなわれ、それぞれ具体的な事例をあげて意見を述べるものが多くなった点がめだち、決議事項に対する責任問題まで取り上げていた。

本年度運動方針決まる

実践的な会体制の整備

第一分科委員会に付託された議題案は、第一号議案昭和三十五年度運動方針並びに事業計画に関する件、第二号議案昭和三十五年度予算に関する件の三議題案でそれぞれ原案を多少修正した程度で可決した。委員長山田万樹君（東京都連）書記大久保照夫君（本部）担当役員奥田喜郎幹事長、渡辺昇事務局長。

第一分科委員会は五月三日午後二時三〇分より一階ホールにおいて開催され、まず山田委員長より付託議題案の審議順序についてはかり例年通り予算案の審議からはじめることになった。

昭和三十五年度予算案は、渡辺事務局長の総括説明に続き収入、支出に分けて審議した。総額五八八万円の内容は〝収入の部〟入会金（一七〇万）賛助会費（一四〇万）補助金（五〇万）寄付金（六〇万）事業・広告収入（六〇万）その他（八万）〝支出の部〟事業費（八八万）地方対策費（四五万）学生対策費（一〇万）文化活動費（二〇万）機関紙（六〇万）会議費（九〇万）調査研究費（六〇万）渉外連絡費（三二万四千）事務費（五一万六千）人件費（七八万）予備費（四三万）となっている。予算案に対する討議は会の主体制確立の意味から会費及び事業収入の確保と増加問題に調された結果、原案通り可決した。

引き続き昭和三十五年度運動方針並びに事業計画案が奥田幹事長より説明され、現状分析とわれわれの進むべき道として、一、友愛主義の普及と研究体制の確立、二、組織の充実、三、国民年金制度普及運動をはじめとする社会福祉運動の展開、一、友愛会館建設運動、二、カレルギー伯の日本招待、一、国際連帯の強調を基本とした本年度の運動方針案を審議した。本年度の本会の方向を決定する議案だけに、各代表ともそれぞれの立場や、実践を通じた発言が多く、特に勤労青少年対策の充実の項では、各支部、地区の実績が発表されるとともに「学業及び身体障害青少年の就業を促進する」との一項を追加することを決定した。そのほか各項目にわたって質疑応答が活潑におこなわれたが、前述の一項を追加することで他を原案通り可決し第一日目の審議を打ち切った。

第二日目の五月四日は午前八時より委員会を再会、事業計画案の審議に入った。本年度事業計画案の要旨は①第三回軽井沢講習会②中央指導者講習会③ブロック、県別講習会④各種講習会⑤友愛しおり発刊⑥映画班の活用⑦国民年金制度普及運動⑧各種助け合い運動の実施⑨青年の海外派遣等で、研習活動を通じ、実践的な会の体制を整備してゆくことに重点がおかれている。これも開催方法について意見の交換があって原案通り可決し、学生部より提出された講演会及び図書充実に関する件を叡塚祥太郎君（関東学生部）の説明を聞き審議、原案通り可決して、委員会に付託された全議題案の審議を終り閉会した。

従来の反省を追求

組織活動方針等決める

第二分科委員会に付託された議題案は、第三号、第四号、第十号、第十一号の四議題案で委員長に篠田健一君（日光支部）書記に清水孝一君（学生部）を選出各議案の審議題決定をおこなった。担当役員は川手正一郎組職部長、尾形智矩組織次長、宮田靖企画部長、稲尾守正情宣部長、早川広中地対部長

第七回全国大会提出議題案

第一号議案・昭和三十五年度運動方針並びに事業計画に関する件
第二号議案・昭和三十五年度予算
第三号議案・会費及び会則一部改正に関する件
第四号議案・昭和三十五年度組織活動方針に関する件
第五号議案・カレルギー伯日本招待に関する件
第六号議案・友愛会館建設に関する件
第七号議案・昭和三十五年度役員選出に関する件
第八号議案・大会宣言に関する件
——以上本部提出——
第九号議案・鳩山一郎記念会館建設に関する件
——東京都連提出——
第十号議案・観光源市百年を中心とした組織強化策とその事業に関する件
第十一号議案・文書による研究並びに調査活動に関する件——以上別府地区提出——
第十二号議案・講演会、図書の充実に関する件
——関東学生部提出——

委員会はまず昭和三十五年度組織活動方針案より審議に入った。同議案の説明は川手組織部長がおこない、各項目別に活発な質疑応答がなされた。特に従来の反省の項で充分な反省がなされてない点が退され、かなり議事が混乱したが結局要旨次の通りの組織活動方針が可決された。

一、全国組織委員会の設置
二、重点的な組織対策の実施
三、一般組織工作計画
四、府県連の結成
五、宣伝活動の展開と充実
六、地域・職域等に対する適正な対策
七、中小企業青年層への働きかけ
八、友愛風潮及び生活を中心とした学習の強化
九、講習会・研修会の開催
十、活動方針の徹底と地方の意見の採択

組織活動方針案の審議が長びいたため第一日目はここで打ち切り、以下の各議案は翌日審議することにした。

第二日目は午前八時より再開し、会綱領及び会則一部改正案について、深津常任参与の説明を聞き、昨年の大会で会綱領再検討の決議を提出した関係で宮田企画部長からも補足説明があって審議に入った。旧綱領を一部改正するというより新綱領の決定に近い改正案なので、一ヵ月間にわたって検討した綱領研究委員会の結論を参考に慎重な討議がなされた結果、原案通り可決、同時に会則の一部改正も異議なく可決した。

第十号、第十一号議案については提案者欠席のため提案趣旨を聴て、組織活動方針中に盛り込みかねてゆくことで了承し、二日間にわたる審議を終った。

カレルギー伯の日本招待

友愛会館建設運動も決まる

第三分科委員会に付託された議題案は、第五号、第六号、第七号、第八号、第九号の五議題案で、委員長に新尾源君（西大寺支部）書記に同前晃一君（学生部）を選出各議題案を審議した。なお担当役員は、北川総務部長、鶴見克雄国際部長、柳沢定勝常任幹事である。

委員会はまず、各議題案の審議順序を決め、第七号議案昭和三十五年度役員選出要項から審議に入った。同議案については北川総務部長より、各管会長にクーデンホフ・カレルギー伯を推薦することをはじめ各役員の選出要項について説明があり、常任幹事定員を修正したほかは原案通り可決、役員の立候補及び推薦を大会日程の変更で五月三日午後十前迄に修正することを了承し、第五号議案カレルギー伯日本招待に関する件の審議に移った。

同計画案の説明は鶴巻国際部長よりなされたが、概要は次の通りである。

クーデンホフ・カレルギー伯夫妻を昭和三十六年四月十日より同五月十日迄の一ヵ月間日本に招待し、日本滞在中に各地を旅行するとともに、講演会、懇親会座談会等を随時開き、会員及び一般の人々に「友愛」の本質にふれてもらう。これがためカレルギー伯招待実行委員会を設置して準備を進めることにする。

以上の計画案は万場一致で可決された。

次いで第六号議案及会館建設に関しては、第九号議案の鳩山一郎記念会館建設計画と関連があるので併合して審議することになり、北川総務部長と都連の大森忠次郎君が説明をおこない、次の付帯決議とともに原案通り可決した。

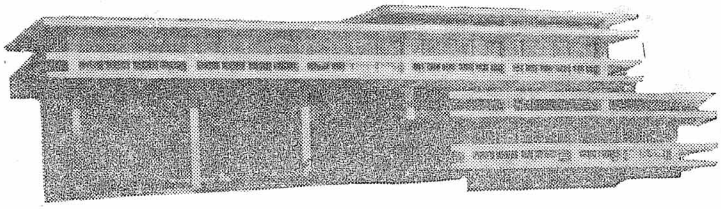
第九号議案に関しては基本的に賛成するが、その建設計画推進にあたっては、常任幹事会、友愛会館建設準備会と密接な連携をとり、調整をはかる。

以上で第一日目の審議を打ち切り第二日目は第八号議案の大会宣言文の作製に入った。同宣言文について原案の字句を一部修正にとどめ別紙の通り大会宣言文を可決して、第三分科委員会は全付託議案の審議を終り閉会した。

改正綱領

一、われらは、自らの尊厳にめざめ相互の人格を尊重し、健全明朗な友愛社会の実現に邁進する
一、われらは、民主々義の健全な発展のために全体主義を排除し、日本国民として公正な識見を確立する
一、われらは、科学技術の振興と生産の増強をはかり、健康で文化的な福祉国家の建設に挺進する
一、われらは、全世界の人間的つながりのもとに国際連帯の意識を養い、もって世界平和と人類の福祉に寄与する

尾道　友愛山荘
年中開設

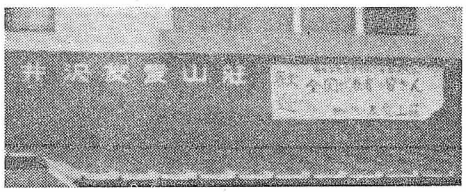


料　金　350円（1泊2食付）
収容人員　70名
申込先
・広島県尾道市千光寺公園内　尾道友愛山荘
TEL（尾道）5554
・東京都文京区音羽町7の10　日本友愛青年協会
TEL（941）2801

われらこゝに集い

今回の大会の特徴は単に提出された議題案を審議決定するにとどまらず、日程中に講演会や各種討論会を組み入れ運動展開に当っての問題点を取り上げ、突込んだ意見の交換をおこなったことであろう。深津栄一常任参与の「友愛の理論と実践」と題する講演をはじめ、「友愛運動の進め方」についてのパネル討議、各分科会にわかれた討論会等、従来の大会にみられない充実した話し合いができた。

友愛運動の進め方のパネル討議では特に地方におけるいろいろな問題点を取り上げ意見を交換し解決の糸口を見い出すため、会結成後いち早く地方活動をおこなった長野県東信支連の熊谷典治君、友愛山荘建設をはじめ各種事業で大きな成果をあげている広島県尾道支部の高橋最宜君、政治活動との関連で先般町会議員に当選した福島県猪苗代支部の清水文夫君、女性会員が最も多く婦人層への働きかけを積極的におこなっている山口支部の田屋富美子さん、学生部を代表して関東の浜本英樹君、関西の山口剛史君の六名にそれぞれ代表意見を述べてもらい、その意見を中心に討議を進め、全参加者へ拡げていった。分科討論会は、ごく身近な問題をテーマにえらび、そこから発展させて友愛運動との結びつきを論じ、今回の大会に対する反省をも合せまとめるようにした。このように話し合いの機会を多くつくった結果、代表全員が何んらかの発言をしお互に理解し会うことが多少なりともできたことは大きな収穫であった。



第7回全国大会日程

5月2日
- 午後6時30分　（資格審査委員会）
- 午後8時30分　（大会運営委員会）

5月3日
- 午前6時　（起床・掃除・体操）
- 午前7時　（朝食・会場設営）
- 午前10時　（開会式）
- 午前10時30分（本会議）
- 正　午　（昼　食）
- 午後1時　（特別講演・深津栄一）
  —演題・友愛の理論と実践—
- 午後2時30分　（分科委員会）
  —三分科委員会にわける—
- 午後6時　（夕食・入浴）
- 午後7時30分（パネル討議）
  —友愛運動の進め方—
- 午後10時　（就　寝）

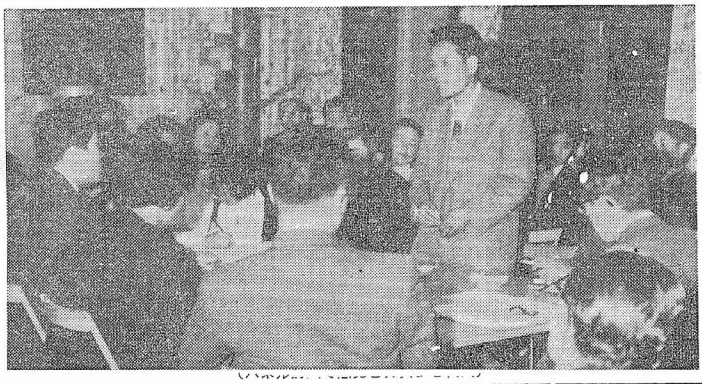
5月4日
- 午前6時　（起床・掃除・体操）
- 午前6時30分（役員選衡委員会）
- 午前7時　（朝　食）
- 午前8時30分（分科委員会）
- 午前10時30分（本　会　議）
- 午前11時30分（閉　会　式）
- 正　午　（昼　食）
- 午後1時30分（分科討論会）
  —討論題目を選定しておこなう—
- 午後3時　（分科討論会まとめ）
- 午後6時　（夕食・入浴）
- 午後7時30分（懇親会・ゲーム）
- 午後9時　（キャンプファイヤー）
- 午後10時　（就　寝）

5月5日
- 午前6時　（起床・掃除・体操）
- 午前7時　（朝　食）
- 午前8時　（リクリエーション）
  —碓氷峠バス遊覧—

実践を生みだすもの

×××

深津栄一



五月の軽井沢

大会にでかける前の二・三日、東京はかなり暑かった。ゴールデン・ウィークをひかえて、誰もが初夏の陽気にあこがれていた。それに、関東平野は、新緑でもえるようであった。「熊の平」から碓氷峠にさしかかるころのみどりのにおいは、私をなかば酔心地にした。

しかし、五月の軽井沢は、まだ春のはじめであった。長い北国の冬をのこして、浅間には、まだ雪がうっすらとかかっていた。木々の芽はまだもえず、すべてにさきがけて咲く白い「こぶし」の花がようやく春のおとづれをつげていた。

それでも山荘には、大会をひかえて若々しい活気がみなぎっていた。鳩山先生がかってクワをふるわれた畠の中には、すでにみどり色のテントが張られ、「事務局」と書かれた立てふだが、この大会によせるさかんな意気ごみを示していた。百人をこえる出席者を収容するにはせまりすぎるこの山荘では渡辺事務局長とそのスタッフ、それに学生部の諸君はすべてテントに「追い出される」ことになっていた。こうして第七回全国大会は長い冬をこしたばかりの、清冽な軽井沢の空気の中でおこなわれたのである。

古い仲間

年一回の大会に集まる人々の中では、もうすでに古いなじみになった人が多い。日光の逢田君、東信の熊谷君や服部君、京都の稲村君、岡山の土井君、尾道の高橋君、それに山口の鍬田君はみな古い仲間である。そして一年に一度の顔合わせでも、みんな毎日顔を合わせていたかのようにお互に肩をたゝきあった。それに今年は、新しい顔ぶれが非常に多かった。そして、それらの人々は、山荘についたその日から「友愛」につながっているという意識のもとに仲間になった。せまい会場に、高橋君が「それを適切」に表現したように「鼻をこすりあわせた」三日間は、お互にきってもきれない親近感を与えたかにとゞまる。

故鳩山一郎先生顕彰論文の募集は去る1月以来全国の会員を中心におこなっていたが、第7回全国大会の開催を機会に入選者の発表をおこなった。深津常任参与の審査報告後、参会者の拍手のうちに、入選者にはそれぞれ賞状と記念品が贈られた。【入選者・蓬田健一　土井昭道、実井忠義、松井政治、浜本英樹】

話し合い

軽井沢の山荘に三日間、代表を「かんずめ」にして大会をおこなったことは、こういった「仲間意識」を育てるに非常に効果があった。それと同時に、これまでの大会に見られない白熱した討議がおこなわれたことも、この大会をより感銘深いものにした。朝六時から夜おそくまで、時には深夜の二時、三時までつづけられた「話し合い」の成果が、どのような結果を齎らすかは、勿論今後の問題であろう。あるものは解決を今後にのばされ、あるものは一応結論がつけられたかにみえる。しかし中央と地方と、そして学生部という三つの組織が、今後どのような協力関係をきづきあげていくかは、まだはっきりとしているとは言えない。

組織の面では、新たに設立された全国組織委員会が、川手委員長のもとに、どのような活動をつゞけるかは、私共すべての期待をにぎっているだけに、注目すべき点である。

六人の代表によっておこなわれたパネル討議は、それ自身、会の基本的なあり方に対して、いくつかの示唆を与えた。具体的な支部活動の中で直面するいくつかの困難がなまのまゝのかたちで提起され、会員の一人一人が、何に苦労を感じ、どのように問題に苦しみをもっているかが明らかにされた。財政と運営の問題は切り離すことができず、他団体との関係や、支部での具体的プログラムをどうするか、友愛活動に対する家庭の協力と理解といった問題は、単なる「かけごえ」だけではどうにもならない面をもっている。学生部の浜本君が言う「友愛」を通じての人間形成の問題は、それが「学生」という立場をこえて、各支部の中で「家族ぐるみ」「村ぐるみ」という問題を考えた場合、時には空虚なひびきを伝えるであろう。しかし、友愛における人間形成は、その過程する社会とのつながりの中で求められなければならない。理解と協力の問題は「人間」が根本にあるからだ。

新しい仲間

大会に集った古い仲間も、そして新しい仲間も、泉の水が自然に湧き流れて集ったものではない。それは八年にわたる「地方まわり」の結果である。恐らく学生部の新しい人々は、奥田君や北川君川手君が集ってきた人々のほとんどと、旧知のように話していることにおどろかされたことであろう。入会の動機を語った人々が、すべて彼等との「ふれあい」を告げていることをみてもそれは明らかである。重い映写機をかつぎ、仲間の家や大貸宿にとまり、幾日も夜行列車で眠って「新しい仲間」をつくってきたのだ。私は今でも吉川君と共にトラックでまわった北海道のほこりだらけの道を忘れることができない。洞爺湖の水で顔をあらい飯をたき、一枚の毛布にくるまって寝た北海道の夜の寒さを忘れることができない。こうしてできた仲間は、かけがえのない人々である。血のかよった兄弟のような仲間である。彼等に会うことのできる五月の大会がうれしくない筈はない。

古い仲間の高杉君が東京に帰って再び根を おろし、地方まわりをやってきた阜川広中君や、尾形、宮田君が常任幹事として新しい責任を荷った。事務局で創立以来下積みの苦労をつづけてきた中村君やそして山荘担当の高野君も幹事として会運営の責任を分担することとなった。中央官庁や他団体の交渉が次第に激しくなって来ている今日、彼等が活躍する舞台は広い。会を代表していろいろの会合に出席する場合の責任は、とくに重大である。自重を期待したい。

古い常幹の鶴巻君は間もなくフィリッピンへ、そして山荘のために骨身惜しまず働らいてきた阜川忠光君は今夏ヨーロッパに旅立つ。旅の安全を、みんなで心から祈ろう。

同じ釜のめし

集った代表のすべてが同じかまの飯をたべ、食器を洗い、山荘の庭を掃いた三日間の経験は、鳩山先生が、かってこゝで「さつまいも」や「じゃがいも」をつくられた経験につながっている。安易に流れ来た「たいはい」を追う現代の青年の中で、山荘に集った人々の三日間の実践が、どのような意義をもつかは、はかり知ることができないであろう。

五月とはいえ、まだ冷気はだを刺す軽井沢の夜のテントは寒かったが、百三十人にのぼる全国の同志の友情はキャンプ・ファイヤーの火のようにあたたかく燃えていたそして深夜にわたる白熱の「話し合い」の中では、睡眠不足もなかった。

集った大人々の中には、軽井沢の生活を、あのシンのある、そしてこけゝさい御飯と共に思い出す人もあろう。しかし、それは仲間がたいてくれた「めし」である。また高杉君の手品や大塚君の泥花節や、そして四国の十川君の「さるまね」を思い出す人もあろう。それは、誰もが「はだか」になってぶつかりあった大会の思い出につながるはずである。

そして、来年もそれらの人に会いたいと思い、来年の「めし」は俺がたいてやろうと思うのである。最後の夜のキャンプ・ファイヤーを思い出そう。真っ赤に燃える かゞり火に照らし出された仲間と感激にほゝを紅潮させてうたった歌を思い出そう。

「われら、こゝに集い」そして「われら、こゝに別れ、また集う日まで元気で暮らそう」ではないか。

料　金

350円（1泊2食付）

収容人員

70名（他にテントあり）

申込先

財団法人　日本友愛青年協会

東京都文京区音羽町7の10
TEL（941）2801

全国大会の成果を活かす
各地でただちに運動を展開

全国大会の感激を持ち帰った全国の代表は、それぞれ支部・地区の報告会を開くやら大会決議事項にもとずく具体的運動の推進を検討するなど、話し合いの成果を実際的な運動面で活かすべく努力を続けている。また学生部や二、三の地方では、ただちに実践活動に入り、本年度の運動が充実したものになることを物語っている。

全国大会2日目の5月4日夜は、懇親会に引き続き全員庭に出てキンプ・ファイヤーを楽しんだ。小雨模様の夜空も若さにあふれる代表たちには何んの苦にもならず、庭隅に高くつまれた薪に火が点ぜられるや、手をつなぎ丸く輪になって、柳沢定勝常任幹事の奏でるアコーデオンにあわせて次から次へと歌をうたい、静かな高原の夜空をこがして紅々と燃える火とともにほほを紅潮させ、友愛の同志としての感激にしたっていた。

"訪日マラヤ青年代表団"受け入れ準備急ぐ
＝岡山県連＝

【岡山発】全国大会の際関係支部地区代表が集まり、今回の訪日マラヤ青年代表団受け入れを打ち合わせたが、現地の岡山では一行の日程にしたがい受け入れ準備を岡山県連が中心となっておこなっている。駅頭での出迎え、興除村の見学昼食懇親会等各関係方面との連絡も終り、一行を待つばかりとなっている。なお準備に万全を期するため岡山県連事務局長渡辺忠一君を近日中に上京させることにしている。

児童保護施設慰問
＝関東学生部＝

関東学生部では全国大会後たちに児童保護施設の慰問行事を計画とりあえず五月十一日午後六時より都内中野区の愛成学園で映画と手品の会を開くことにしている。なお今後の活動、特に児童保護施設の定期的慰問、地方巡回映画班への協力、東西学生部交流計画の実施、学生部資金の確立等を中心に具体的なスケジュールを作製するため、五月十五日に執行部会議を開く。その他早期対策の立案も急いでいる。このような学生部の実践活動に対する意欲的な働きは今回の全国大会の成果として大いに心強いものがある。

尾道支部でも子供達を慰問

【尾道発】尾道支部では今回の大会に代表三名を含め八名を参加させたが、留守をあずかる会員有志によって、五月五日「子供の日」に尾道市内の児童保護施設"青和学童寮""三美園"の子供達の慰問をおこなった。

当日は収容児童約四〇〇人にそれぞれ菓子をおくるとともに、福祉事務所の映画班の協力を得て映画会を両施設でおこなった。

訪日マラヤ青年代表団
視察日程案決まる

既報の通り，日本青年団体国際委員会では，近く来日するマラヤ青年代表団の受け入れ準備を進めているが，この程滞日中の日程案が決まり，各方面に協力を呼びかけている。本会ではこれに積極的に協力するため本部は勿論各支部・地区でも受け入れ体制を整えている。

五月十九日（東京）代表団到着（羽田空港午後八時三十分）
五月二十日（東京）国際委員会懇談会、関係官庁挨拶回り、（午後）マラヤ大使館主催歓迎パーティー（夜）
五月二十二日（東京）教育施設見学（午前）岸総理招待昼食会（教育施設見学午後）国際委歓迎レセプション（夜）
五月二十三日（名古屋）都内見学
五月二十三日（名古屋）日本陶器、市内見学（午後）懇談会（夜）
五月二十四日（三重）石原産業工場見学（午後）懇談会（夜）
五月二十五日（奈良）奈良見学（午後）
五月二十六日（大阪）関係官庁挨拶回り（午前）松下電器センター、鐘紡（午後）歓迎会（夜）
五月二十七日（大阪）久保田鉄工所（午前・午後）
五月二十八日（岡山）農業地視、興除村・藤田村を中心（午後）懇談会（夜）
五月二十九日（広島）砂谷酒造場、原爆記念碑（午後）懇談会（夜）
五月三十日（山口）三井化学石油工業（午前）産業開発青年隊、農漁村祭（午後）
六月一日（愛媛）帝国人絹（午前）愛媛県知事招待昼食会、農業学校視察（午後）
六月四日（神戸、京都）川崎造船所（午前）京都市内見学（午後）茶会、スキヤキパーティー（夜）
六月五日（静岡）沼津試験場（午後）
六月六日（静岡、山梨、東京）富士五湖めぐり
六月六日（東京）自由見学
六月八日（東京）いすゞ自動車見学（午前）日本光学（午後）マラヤ大使館歓送会（夜）
六月九日（栃木）日光（午前）
六月十日（東京）中青連懇談会（午前）訪マラヤ日本青年視察団昼食会、関係官庁挨拶（午後）国際委歓送会（夜）帰国

北川登君の結婚式

北川登君（常任幹事・財団事務局長）と添戸きみ代さんの結婚式は4月16日東京・明治神宮外苑内の日本青年館において日本大学教授百々巳之助氏夫妻の媒酌によりおこなわれた。挙式後世話人会で披露の会を催し、両君の新生活の門出を祝福した。なお披露の会には川崎秀二副会長夫妻、鳩山威一郎氏夫妻をはじめ会関係者、関係団体からも代表が多数出席し、それぞれお祝のことばを両君におくった。世話人会でも記念品を贈り両君へのはなむけとした。

日本代表に早川忠光君
―ユース・ラリー於フランス―

本年八月八日より九月三日までフランスで開催される国際青少年大会および第二十一回野外活動大会（ユース・ラリー）の日本代表を日本ユースホステル協会において選衡中であったが、本会常任幹事早川忠光君が日本代表として決定したむねの通知があった。

早川君は本会の常任幹事であるとともに、財団法人日本友愛青年協会の主事を兼務し、軽井沢友愛山荘のホステルペアレントをしているが、今回のユースラリー代表に選ばれたのは、ホステルペアレントとしての資格と実績にもとづいて選出されたものである。

なお同君の渡仏は自費であるので本会では旅費調達のため会員及び関係者より資金カンパをお願いすることになった。（受付は本会事務局でおこなう）

子供会の育成
＝児島支部＝

【児島発】岡山県児島支部では、五月五日「子供の日」を記念して児島市内の優良子供会の指導者を表彰し記念品を贈った。

当日は午後一時より児島市味野小学校に市内の子供会員が集まりいろいろな行事を催した席上、子供会の育成に熱心な指導をしている森本好則君（羽子供会、二十五才）河端真佐子さん（田浦青空子供会・中学三年生）の二人に、児島支部長土井昭道君で表彰状並びに記念品を贈ったものである。

お茶の会
＝毎月二回開催＝

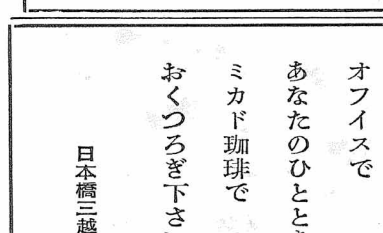
東京都連では、文化活動の一環として毎月二回文京区音羽の鳩山邸離日本間において「お茶の会」を開催することになった。

この会には特に大日本茶道会の山田樵蘆氏が出張教授して下さることになっている。

×　×　×

【五月例会】
日時　五月二十二日（日）午前十時～正午
会場　鳩山邸離日本間
会員以外の方々も誘い合わせの上出席をお願いいたします。

碓氷峠へ



5月5日全国大会参加者は碓氷峠へハイキングした

エバーソフト

エバーソフトはブリヂストンが責任をもっておすすめする商品です。なかのゴムは勿論、カバーも特に吟味して良質のものを使用しておりますので安心して御使用して頂けます。最近　類似品がありますから、お買求めの節はブリヂストンのエバーソフトと御指定下さい。

―会員割引―
エバーソフト全製品を会員には割引で販売いたします。
送料（関東・甲信越は当方が負担。その他の地方の方は実費をいただきます）
お申込は
友愛青年同志会事務局へ

珈琲は
あなたの香り
御家庭で
オフィスで
あなたのひとときを
ミカド珈琲で
おくつろぎ下さい
日本橋三越前
珈琲の専門店
ミカド珈琲商会
中央区室町1の6
TEL（241）1057・0530

楽しみの多い証券貯蓄
岡三の投資信託
只今募集中　1口　5,000円
あなたのマネー・コンサルタント
資料のお申込は
東京日本橋局区内
岡三証券業務部
岡三証券
本社　大阪市東区今橋2の3
支店　東京・名古屋・京都他全国主要都市